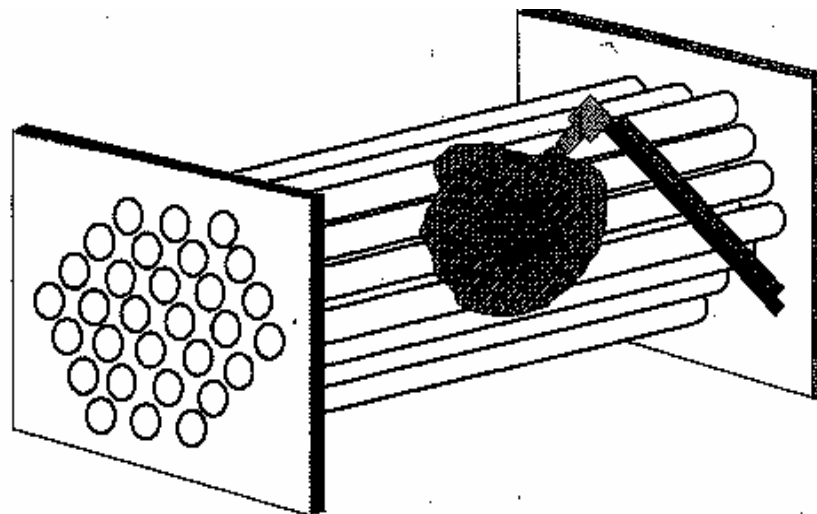


・事例 右図のようにチタン管の溶断作業で発火



チタンチューブを使用したシェル&チューブ熱交換器の火災事例*を踏まえ、上図の様な試験装置による燃焼実験を行った。(25.4mmφ×0.5mmt×810mm×42本)
その結果、下記の条件が重なった場合、チタン管群は燃焼を継続する事が分かった。

・対策 チタン材(パイプ等)が集中し、燃焼が持続する条件(送風等)が揃うと、溶断した際に着火し、燃焼が持続することが実験で確認されています。・・・詳しくは、「チタンの発火・燃焼と防止事例」(日本チタン協会、平成13年4月発行、有償)を参照ください。